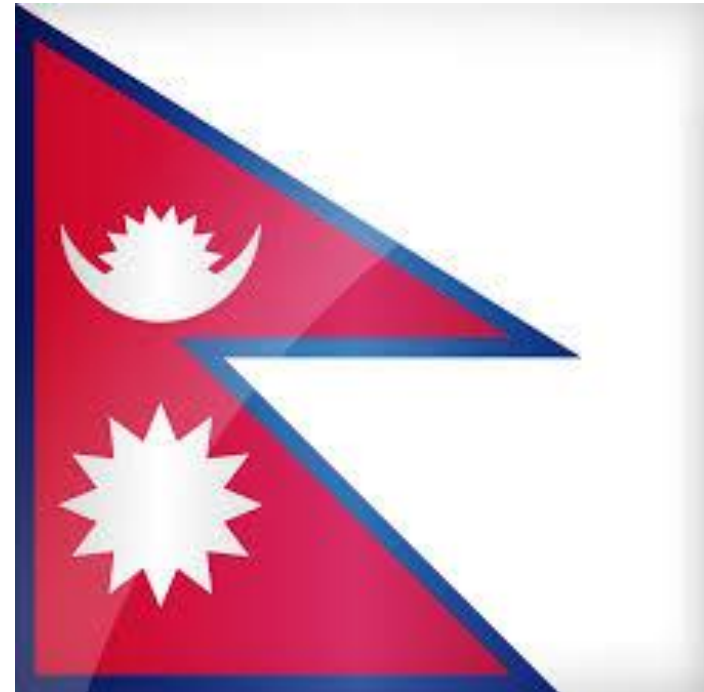


東京地学協会平成29年度【春季特別講演会】 「ネパールー自然の魅力と人々の暮らし」

2017年6月10日(土)13:15～16:45

会場:東京グリーンパレス



ネパール連邦民主共和国、通称ネパールは、南アジアの共和制国家

13:15 ~ 13:25 開会挨拶 加藤 碩一
まず、はじめに 私事で恐縮ですが、ネパールとの関わりの一コマご紹介！



第17回 宮沢賢治賞・イーハトーブ賞受賞記念

平成19年9月22日

2007年9月28日の、読売新聞によると、岩手県花巻市が、ネパールにあるナンダ・プラサド・ウプレティさん(41)の学校に「宮沢賢治のイーハトーブ賞奨励賞」を贈ったと言う。

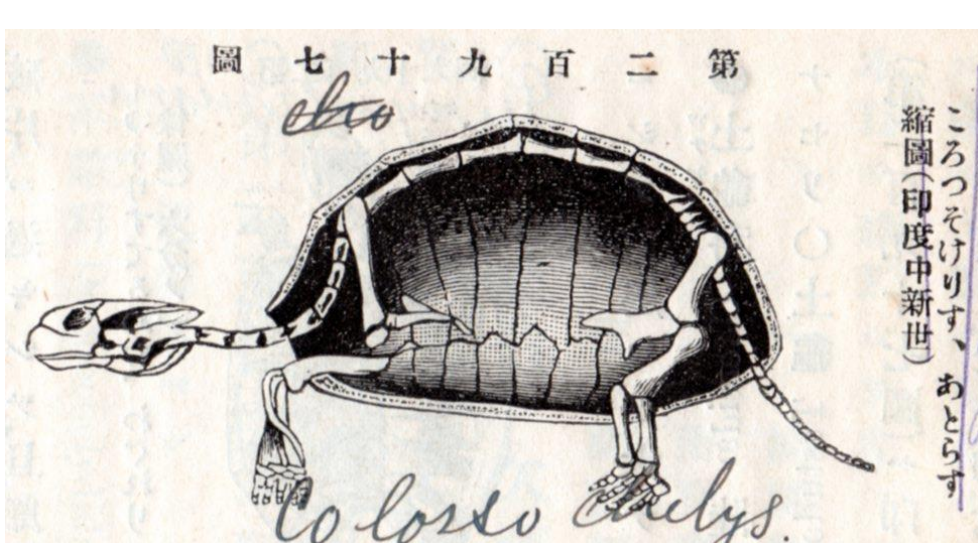
- ナンダさんは、1997年に、日本政府の青年交流事業で来日して、活動の一環として花巻市の、宮沢賢治記念館を訪問した。そして、賢治の生涯に感動して帰り、私財を投じて2000年に、貸しビルで開校した。花巻小学校との交流が始まりました。
- 宮沢賢治が、人々の生活を豊かにするために生涯をささげた生き方に感銘を受けたそうだ。また、『他者への奉仕や、自然を愛する心、賢治の精神は世界中に語り継がれるべきなのです』とも言っている。
- 当初は、息子まで入れて、8人の生徒だったが、今は、150人に増えたと言う。ナンダさんは、日本人に似た謙虚な人である。こんな国に日本の地方都市が賞を送るのは大変嬉しいものだ。

昨年4月にネパールで地震が起きた際には、花巻小学校だけではなく、岩手県全域からネパールに義援金が送られました。2016年11月2日、ネパールの国家復興庁、内閣府、都市開発省などの若手行政官15名は、岩手県庁を表敬訪問し、青年研修「災害リスクエリアにおける地域活性化コース」が始まりました。ネパールの研修員を迎えた花巻小学校の子供たちは、大喜びでした。



明治期:ネパール鎖国中(外国教科書や 登山家の報告引用。ヒマラヤ記述極少)

- 横山又次郎(1896、明治29年)
『地質學教科書』 氷河との関連
- 横山(1907,明治40年) 『古生物學』



「土亀科」の土亀の一種である「コロツソケリス Colossochelys」で、「印度シワリック山」Sivalik Hillsの中層に発見せられたるものにして頭の長さ約六寸六分幅約五寸六分あり、...体の長さ一丈八尺乃至二丈、甲の長さ一丈二尺その高さ八尺...古今絶大の亀なり」

大正期

- 佐藤傳藏(1916、大正5年)『地學雜誌』
「印度ヒマラヤ山麓のシワリク」
- 横山(1918、大正7年)『前世界史』
「ヒマラヤ山の南麓に、数百里に連なる丘脈がある。之をシワリック山と称して、此に厚さ数千米に及ぶ含哺乳類の第三紀層がある。」
- 横山(1919、大正8年)『地質學攬要』
「亞細亞の鮮新統」「印度の北部で、ヒマラヤ山の南麓に當つて、シワリック山といふ丘陵の脈がある。これが厚さ數千米の第三紀層から成り立って居る。之をシワリック系と稱へて、下部と上部とに分れ、各多數の哺乳類を含んで居る。…最上部は洪積層の最下部と見る學者もゐる。」
- 辻村太郎(1923、大正12年)『地形學』
三帯の區別(Sub-Himalaya, Siwalik Series), 逆断層境界、活断層の可能性、花崗岩類の併入は始新世末
- 青山信雄(1925、大正14年)『地球の起源と歴史』
ヒマラヤ山脈の成生(始新世末・中部中新世末・鮮新世の隆起)

ヘディンの日本での講演は、山崎直方の訳により、東京地學協會編纂(1909)地学論叢第四輯『ヘディン號』として、大日本圖書株式會社から一般向けに出版。

東京地學協會編

(九月一日より發賣)

後付四

地學論叢

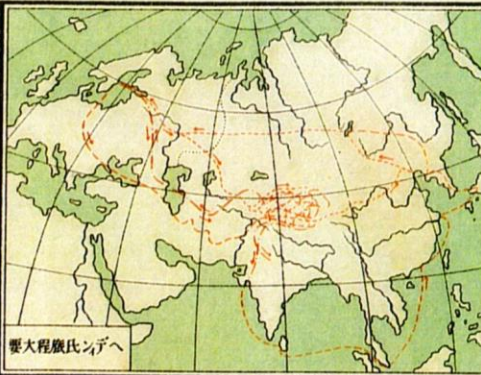
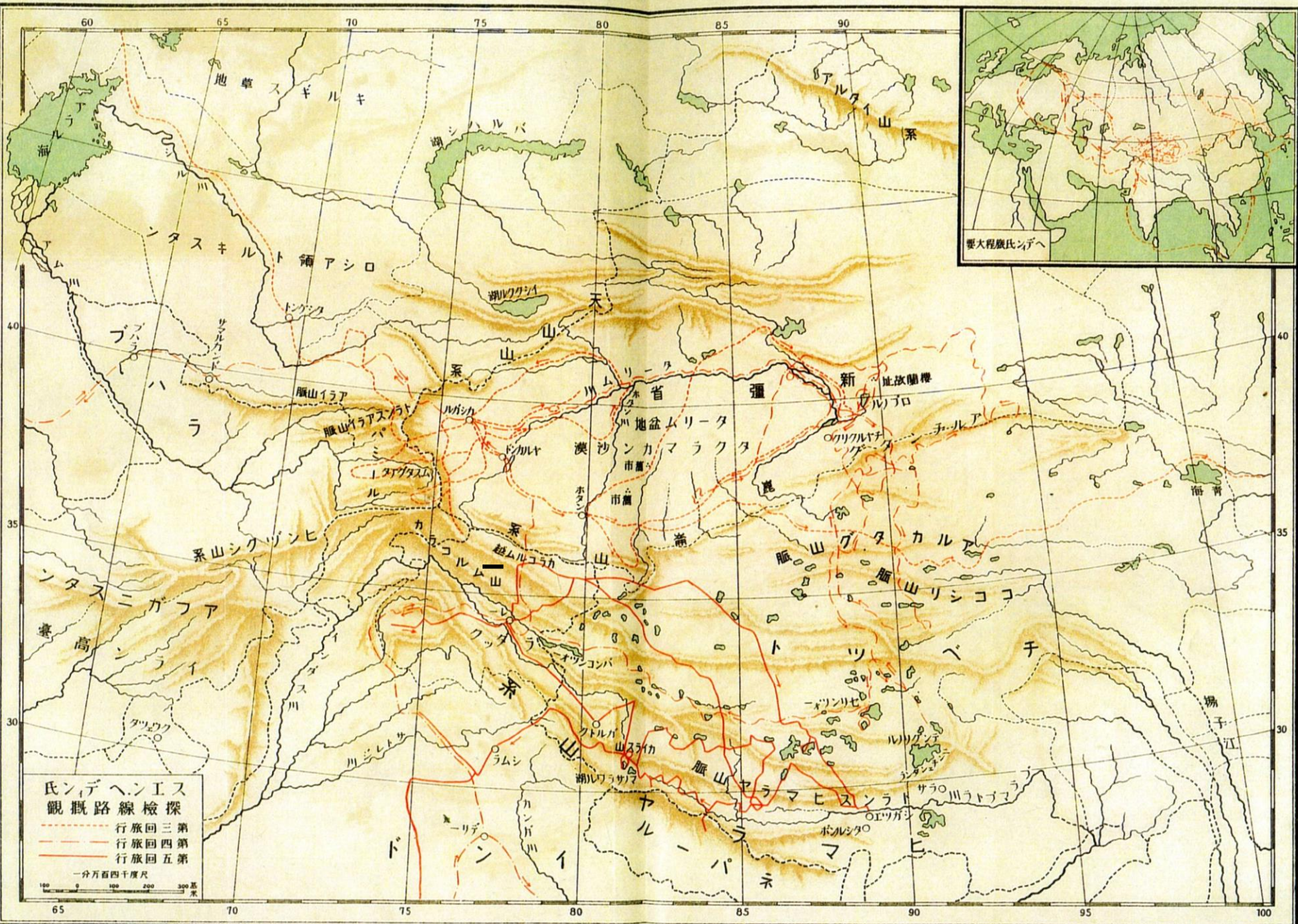
第四輯

ヘディン號

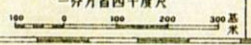
▲菊判全一册 定價金七拾五錢 郵稅金六錢▼

本書は東京地學協會の編纂にかゝる地學論叢第四輯にして特に題してヘディン號と稱す、昨秋我が至尊の殊恩に浴し朝野の絶大なる歡迎を受けたる學術界の偉人ヘディン博士の傳記及其探檢記なりとす、博士は豊富なる學殖と蒙壯なる氣力とを有し亞細亞内地の探檢に従事すること前後五回二十有餘年其の西藏の探檢を終へ東京地學協會の招聘に應じ東西兩帝國大學其他に於て是等探檢の事蹟を發表せり本書記する所のもの即是なり、彼のタクラマカン沙漠トランスヒマラヤ山系、西藏の風教等の記事の如き一々紙上に活躍せり行文流麗其添加せる幾多の地圖寫眞の鮮明美麗なる錦上添花を添ふるの觀あり、鍋島侯爵本書に序して「之を一讀せば氏の俊邁にして旺盛なる氣力洽博にして深遠なる學殖の一般は紙上に躍如たるものあらむ」と蓋し本書が地學社會に一新資料を提供し世の少壯人士を鼓舞激勵し文弱淫靡に傾かんとする風潮を打破して徳教に資すること大なり新進氣鋭の教育家諸彦の一讀を望む


東京地學協會編 東京一丁目橋區 大日本圖書株式會社 (振二) 替一 口九 座番



氏ンデヘンイス
 観概路線検探
 - - - 行旅回三第
 . . . 行旅回四第
 ——— 行旅回五第
 一分万百四千度尺



サブヒマラヤSub Himalaya・前ヒマラヤ・シワリク山地を南に望む 平均高度900m前後(～1200m)



賢治は、「北上山地」を「シュワリック山系」になぞらえている。
「白い横雲の上には/第三紀からの/巨大なシュワリック山彙もうかぶ」
「第三紀の末にほろびた/巨きなシュワリック山彙の像が」
「(あゝ 茫びたるポロニアン/また極東のシュワリック)」
「わたくしはそれを古いシュワリック山彙とよび」
「わたくしはそれを古代シュワリック山系とたはむれ /まなこを転じて新らしい岩手
平野をよべば」

シワリク山地を南北に横切る峠道



シワリク層のモラッセ

昭和初期

- ・ 森下正信(1926)『地質學通論』
ヒマラヤは中生層以後に生じた連鎖山脈
- ・ 香川幹一(1929、昭和4年)『地形學原論』
「第三紀の褶曲構造」
- ・ 辻村太郎(1930、昭和5年) 『古地文學』
「ヒマラヤ山系の南麓に発達して居る鮮新世の
シワリク層 (Siwalik Formation)なども非常に厚
い河流堆積物である。

戦後日本人によるネパールの地質調査

- **1960-70年代: 予察的地形・地質等調査**
- **1979年: 地質調査所によるカトマンズ盆地の天然ガス調査**
- **1980年代: 個別の地域・主題に関する調査研究
(地形面区分・湖成堆積物・活断層・天然ガス・古地磁気層序・テクトニクス)**
- **1990年代: 古環境・テクトニクス**
- **2000年代: 古地磁気・活断層・第四紀堆積物
(カトマンズ盆地)・古気候**
- **2010年代: 地震・震災**